

基礎データ(市域を越えた広域連携による魅力発信)

各市の人口、面積などの基礎的な情報を市域を越えてまとめています。

項目	八王子市	府中市	調布市	町田市	日野市	狛江市	多摩市	稲城市	市域全体
人口 (注)総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」(2019年1月)	56万2460人	26万11人	23万5169人	42万8685人	18万5393人	8万2481人	14万8745人	9万0585人	199万3539人
面積	186.38 km ²	29.43 km ²	21.58 km ²	71.55 km ²	27.55 km ²	6.39 km ²	21.01 km ²	17.97 km ²	381.86 km ²
労働力人口 (注)総務省統計局「労働力調査」(2015年10月)	25万9121人	12万8,317人	11万1962人	18万4842人	8万3763人	3万7688人	6万4761人	4万2237人	91万2691人
人口増減率(3年前比)(2016~2018) (注)総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」	0.06%	1.27%	3.87%	0.41%	1.44%	3.09%	0.61%	3.57%	-
世代別人口比率 (注)総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」(2019年1月)									-
年少人口	11.74%	13.35%	12.63%	12.59%	12.72%	11.72%	11.71%	14.8%	
生産年齢人口	61.73%	64.97%	65.97%	60.75%	62.58%	64.29%	60.16%	64.06%	
老年人口	26.53%	21.68%	21.4%	26.66%	24.7%	23.99%	28.13%	21.14%	
後期高齢者	13.14%	11.06%	11.23%	13.89%	12.9%	13.06%	13.49%	10.11%	
財政力指数 (注)2018年度 総務省「市町村別決算状況調」	0.95	1.22	1.22	0.98	0.97	0.89	1.13	0.96	-

GDP (注)環境省「地域経済連関表」	2兆1297億円	1兆4631億円	8351億円	1兆2381億円	1兆2370億円	1990億円	6229億円	2519億円	7兆9768億円
1人あたり所得 (注)総務省「市町村税課税状況等の調」	354.6万円	391.1万円	418.3万円	394.2万円	374.1万円	314.7万円	369.3万円	404.6万円	-
事業所数 農業(H27) (注)2013年農業センサス	1197戸	326戸	231戸	849戸	301戸	118戸	83戸	251戸	3125戸
製造業(H30) (注)H30年度工業統計調査	521戸	118戸	87戸	129戸	62戸	23戸	21戸	60戸	934戸
商業(H28) (注)H28年度経済センサス活動調査	3302戸	1256戸	1104戸	2261戸	675戸	342戸	706戸	324戸	8866戸
従業員数(就業人口) (注)平成27年国勢調査	1576人	770人	665人	1301人	564人	327人	277人	483人	
第1次産業(人口) (割合)	0.7%	0.7%	0.7%	0.8%	0.8%	1.0%	0.5%	1.3%	
第2次産業(人口) (割合)	4万8616人	2万1,118人	1万4912人	3万831人	1万6007人	5094人	8619人	7363人	
第3次産業(人口) (割合)	21.2%	18.5%	15.6%	19.0%	21.5%	15.4%	15.2%	19.6%	
	17万9322人	9万2,522人	8万115人	12万9828人	5万8053人	2万7591人	4万7656人	2万9788人	
	78.1%	80.9%	83.7%	80.2%	77.8%	83.6%	84.3%	79.2%	
小売業年間販売額 (注)経済センサス活動調査(2015年)	5691.8億円	2,164.1億円	1928.8億円	4931.1億円	998.2億円	542.0億円	3333.3億円	630.3億円	2兆220億円
小売業事業所数 (注)経済センサス活動調査(2016年6月)	2499	948	908	1907	545	316	171	256	7550
小売業従業員数 (注)経済センサス活動調査(2016年6月)	27744人	10,160人	9105人	21303人	5622人	1133人	7767人	3357人	6万6191人

駅の乗降者数

<p>中央本線八王子駅 85,003人/日 西八王子駅 32,216人/日 高尾駅 28,871人/日 横浜線片倉駅 5,221/日 八王子みなみ野駅 18,721人/日 八高線北八王子駅 9,661人/日 小宮駅 3,050人/日 京王線京王八王子駅 29,755人/日 北野駅 11,550人/日 長沼駅 2,011人/日 京王高尾線京王片倉駅 2,555人/日 山田駅 2,599人/日 狭間駅 4,050人/日 高尾駅 13,918人/日 高尾山口駅 5,631人/日 京王相模原線京王堀之内駅 16,523人/日 南大沢駅 32,179人/日 多摩都市モノレール松が谷駅 1,330人/日 大塚・帝京大</p>	<p>JR武蔵野線 (注1) ・北府中駅 1万5,064人/日 ・府中本町 1万7,126人/日 JR南武線(注1) ・分倍河原駅 4万1,240人/日 ・西府駅 1万664人/日 京王線 ・武蔵野台駅 2万6,232人/日 ・多磨霊園駅 1万3,046人/日 ・東府中駅 2万1,274人/日 ・府中競馬正門前駅 2,922人/日 ・府中駅 8万8769人/日 ・分倍河原駅 9万5,121人/日 ・中河原駅 2万5,845人/日</p>	<p>京王線仙川駅 8万2724人/日 つつじヶ丘駅 4万5169人/日 柴崎駅 1万8042人/日 国領駅 3万8713人/日 布田駅 1万6784人/日 調布駅 13万65人/日 西調布駅 1万7610人/日 飛田給駅 2万8284人/日</p>	<p>JR横浜線 (注1)町田駅 11万899人/日 相原駅 1万407人/日 成瀬駅 1万9096人/日 (小田急小田原線) 町田駅 28万9419人/日 玉川学園前駅 4万6581人/日 鶴川駅 6万8992人/日 東急田園都市線南町田グランパーク 4万84人/日 すずかけ台 1万1623人/日 つくし野 1万1544人/日 京王相模原線多摩境駅 2万530人/日 注1乗車人員のみで、降車人員等は含まれていません。</p>	<p>京王線高幡不動駅 5万8426人(+2万7452人) 南平駅 1万722人 平山城址公園駅 8402人 百草園駅 7620人 多摩動物公園駅 6073人(+2423人) 程久保駅 1655人 甲州街道駅 8935人 万願寺駅 8081人 日野駅 2万6916人 豊田駅 3万5718人</p>	<p>小田急線狛江駅 4万9000人/日 和泉多摩川駅 1万6000人/日 喜多見駅 3万4000人/日</p>	<p>京王線聖蹟桜ヶ丘駅 6万5,246人/日 京王永山駅 4万6,013人/日 京王多摩センター駅 9万353人/日 小田急永山駅 3万1,056人/日 小田急多摩センター駅 5万1,315人/日 唐木田駅 1万7,207人/日 多摩都市モノレール多摩センター駅 37,104人/日 (2018年度)</p>	<p>JR南武線 (注1)矢野口駅 1万147人/日 稲城長沼駅 8,242人/日 南多摩駅 6,814人/日 注1乗車人員のみで、降車人員等は含まれていません。 京王線京王よみうりランド駅 1万3,687人/日 稲城駅 2万1,522人/日 若葉台駅 2万6,954人</p>	<p>—</p>
---	---	--	---	--	---	--	---	----------

<p>学駅 3,470 人/日 中央大 学・明星大学 駅 17,486 人 /日 ※出典 「統計八王 子（令和元 年版）」 （上記数値 は平成 30 年 度のもの）</p>	<p>西武多摩川線</p> <ul style="list-style-type: none">▪ 多磨駅 1万3,757 人/日▪ 白糸台駅 6,439 人/日▪ 競艇場前駅 2,924 人/日▪ 是政駅 7,838 人/日 <p>（注1：乗車人員 のみで、降車人員 等は含まれていま せん。）</p>							
--	--	--	--	--	--	--	--	--

<p>所在大学・短期大学</p>	<p>2 1 大学 (公) 東京都立大学 (私) 創価大学(私) 拓殖大学(私) 多摩美術大学(私) 中央大学(私) 帝京大学(私) 東京工科大学(私) 東京純心女子大学(私) 東京造形大学(私) 東京薬科大学(私) 日本文化大学(私) ヤマザキ学園大学(私) 工学院大学(私) 杏林大学 デジタルハリウッド大学(私) 明星大学(私) 法政大学(私短) 創価女子短期大学(私短) 帝京大学短期大学(私短) 山野美容芸術短期大学※ 八王子市内に所在地の</p>	<p>2 大学 国立大学 ・東京外国語大学 ・東京農工大学(農学部)</p>	<p>4 大学(国)電 気通信大学(私) 白百合女子大学(私) 桐朋学園大学(私短) 桐朋学園芸術短期大学</p>	<p>8 大学 (私) 桜美林大学(私) 国士館大学(私) 昭和薬科大学(私) 玉川大学(私) 東京家政学院大学(私) 法政和光大学(私短) 鶴川女子短期大学(現：フェリシアこども短期大学)</p>	<p>3 大学 ・(公) 東京都立大学 ・(私) 実践女子大学 ・(私) 明星大学</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>
------------------	--	--	---	--	--	----------	----------	----------	----------

ビジネス環境

各市(調布市、狛江市)のビジネス環境について、地勢やインフラなどの側面からご紹介します。

項目	八王子市	府中市	調布市	町田市	日野市	狛江市	多摩市	稲城市
位置及び地勢	<p>八王子市は、東京都心から西へ約 40 キロメートル、新宿から電車で約 40 分の距離に位置しています。地形はおおむね盆地状で、北・西・南は海拔 200 メートルから 800 メートルほどの丘陵地帯に囲まれ、東は関東平野に続いています。</p>	<p>府中市は、東京都のほぼ中央に位置し、東京都の副心である新宿から約 22 キロメートルに位置しています。豊かな自然に囲まれた良好な居住環境や、都市機能が集積しています。</p>	<p>調布市は、東京都全域(離島を除く)のほぼ中央にあり、都心部からは約 20km 圏域の多摩地域南東部に位置しています。市域は東西 7km、南北 5.7km、面積は 2153ha であり、東は世田谷区、西は府中市、南は狛江市及び多摩川をはさんで稲城市と神奈川県川崎市、北は三鷹市と小金井市にそれぞれ接しています。</p>	<p>町田市は、東京都多摩地域の南端にあり、半島のように神奈川県に突出した形状をしています。多摩丘陵の西部から中央部を占める位置に立地している、市域は、東西 22.3 km、南北 13.2 km、面積は 71.55 km²です。多摩地域 26 市の中では4番目の広さとなっています。地形は、市域の南西側が境川によって区切られています。丘陵域は鶴見川、境川の源流域となっているため、都心近郊にありながら、豊かな自然環境を有しています。</p>	<p>都心から西に 35 キロメートル、東京都のほぼ中心部に位置し、多摩川と浅川の清流に恵まれ、湧水を含む台地と緑豊かな丘陵をもつまちです。甲州街道・川崎街道の二つの街道と JR 中央線・京王線の二つの鉄道が走り、多摩モノレールも通っています。</p>	<p>狛江市は、新都心新宿から電車(小田急線)で南へ 20 分の位置にあり、市役所を中心に東経 139 度 34 分 43 秒、北緯 35 度 38 分 06 秒(世界測地系による。)、東は世田谷区、西及び北は調布市、南は多摩川をはさんで神奈川県川崎市に接しています。</p>	<p>多摩市は、多摩丘陵地帯の北端部にあり、北の多摩川と南の多摩丘陵稜線に挟まれ、中央を多摩川支流の大栗川とその支流の乞田川が流れる起伏に富んだ一帯です。標高は多摩川沿いで約 50m、天王森公園付近が約 160m。東経 139 度 27 分、北緯 35 度 38 分に位置し、北は多摩川を境に府中市、東は稲城市、南は神奈川県川崎市と町田市、西は八王子市と日野市に接しています。令和 2 年 12 月で</p>	<p>稲城市は、南多摩地区の東端にあり、南東部より西部にかけて神奈川県川崎市と接し、北は、多摩川を隔て府中市、調布市に接し、西部は多摩市に接しています。東京都心の新宿から南西に約 25 キロメートル離れて位置しており(東経 139 度 30 分 29 秒、北緯 35 度 38 分 5 秒)、東西、南北ともに約 5.3 キロメートル、面積 17.97 平方キロメートルで北の境界線に当たる多摩川を一辺として、ほぼ三角形をなしています。</p>

							面積は 21.01 km ² 、 となっています。	南側には多摩川に並行して標高約 45 から 80 メートルのなだらかな多摩丘陵（最高海拔 162 メートル）があり、また当市の中央部には三沢川が流れ、市を北西部と南東部に二分しており、大丸地区に谷戸川が北西部から南東部へと流れています。
沿革	大正 6 年（1917 年）の市制施行から、平成 29 年（2017 年）で 100 年を迎えました。また、平成 27 年（2015 年）4 月に、東京都初の中核市となり、現在約 58 万人の人口、21 の大学等を抱えた学園都市として、発展を続けています。	西暦 645 年、大化の改新により武蔵国の国府が置かれ、早くから政治、経済、文化の中心地として栄えてきました。 鎌倉時代末期は合戦の舞台となり、江戸時代には甲州街道の宿場町として栄え、明治以降は郡役所が置かれるなど、多摩地域の中心として歴史的役割を担ってきました。	明治 22 年の市制・町村制施行により調布町と神代村が誕生し、昭和 30 年の神代町と調布町の合併により、調布市が誕生しました。その後、昭和 39 年の東京オリンピックの開催と前後して、甲州街道の整備や大規模団地の整備が進み、人口も年々増加の一途をたどってきました。	昭和 33 年に町田町、鶴川村、忠生村、塚村が合併し、東京都第 9 番目の市制が人口 6 万人で誕生しました。JR 横浜線、小田急小田原線、東名高速道路、横浜町田インターチェンジ、東急田園都市線の開通など、広域的な交通条件の高まりを背景に、1960 年代から 1970 年代にかけて住宅地の開発が進み、新たな首都圏近郊の住宅都	昭和 38 年に市制を施行し、当時の人口 5 万人から増加し、現在は 18 万人を越えています。「新選組のふるさと」でもある日野市は、副長・土方歳三や六番隊隊長・井上源三郎が生まれ育ったほか、彼らの活動を支えた名主の佐藤彦五郎の屋敷（日野宿本陣）が残っています。	明治 22 年の市制・町村制施行により狛江村が誕生し、昭和 27 年の町制施行により、狛江村が狛江町に、昭和 45 年の市制施行により、狛江町が狛江市になりました。その後、平成 7 年の小田急線連続立体交差事業による高架化、平成 10 年の狛江駅北口再開発事業の完成など、都市整備が進み、人口も年々増加の	明治 22 年 4 月 1 日の市町村制の施行とともに、旧 8 カ村と 2 つの飛び地が合併して多摩村が誕生し、昭和 46 年の市制施行により、多摩市になりました。この「多摩」という語の語源については諸説ありますが、多摩川の上流の峠で山梨県丹波山地方から起こったという説が最も有力です。上流の川の名である丹波（たば）川が生まれ、この川の	明治 22 年の市制・町村制施行により稲城村が誕生し、昭和 32 年の町制施行により、稲城村が稲城町に、昭和 46 年の市制施行により、稲城町が稲城市になりました。その後、京王相模原線京王よみうりランドー多摩センター間開通や南武線各駅の高架化、区画整理事業など、都市整備が進み、人口も年々増加の

		昭和 29 年 4 月、府中町、多磨村及び西府村の 1 町 2 村が合併し、人口約 5 万人の府中市が誕生しました。現在では、25 万人を擁する首都東京の近郊都市として、発展を続けています。		市として発展を遂げてきました。		一途をたどってきました。	名によって地域である郡名の多摩郡も称号するようになったといわれています。	一途をたどってきました。
インフラの特色	八王子市は、新宿から電車で約 40 分の距離という都心からのアクセスがしやすい場所に位置し、市の西部に位置する高尾山を中心として、年間を通じて多くの観光客・登山客が訪れます。2020 年には東京都内で初めて「霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都(そうと)物語～」として文化庁が認定する「日本遺産」に認定され、今後国内から多くの観光客が見込まれます。	<p>・交通</p> <p>本市の交通体系は、鉄道網は京王電鉄京王線、京王電鉄競馬場線、JR 南武線、JR 武蔵野線、西武鉄道多摩川線で構成されており、市内には 14 の駅があります。</p> <p>都市計画道路は令和 2 年 4 月 1 日現在、計画延長の 82.5% が完成しており、多摩地域では比較的高い完成率となっています。</p> <p>路線バスは、府中駅を中心と</p>	調布市は、都心に近い交通至便な地域でありながら、水と緑に代表される豊かな自然環境に恵まれていいます。まちの個性や魅力・特色として、「都心への交通の便がよい」、「豊かな自然がある」が高い割合となっています。平成では、文化会館たづくりや多摩地域初のサッカースタジアムが開設されたほか、平成 24 年 8 月には京王線連続立体交差事業により、京王	町田市は、都心部や周辺地域へのアクセスに優れた地理的な利点があり、利便性の高い中心市街地と自然あふれる郊外が共存したまちです。市域の主要な交通網のうち、鉄道は JR 横浜線、小田急小田原線、東急田園都市線、京王相模原線の 4 路線が通っています。町田駅から新宿駅、横浜駅、共に約 30～40 分程度で結ばれ、広域的な公共交通の利便性に恵まれていいます。小田急小田	日野市は新宿から電車で約 30 分、東京都のほぼ中央に位置し、通称「東京のへそ」とも言われています。JR 中央線・京王線・多摩モノレールで合計 12 の駅があり、市民一人当たりの駅数は多摩地域でトップクラス。通勤や通学、市内外へのアクセスが大変便利です。かつて「多摩の米蔵」と呼ばれ、田園が広がっていた日野市には、今でも豊かな自然が残っています。都心に近く、便利な住	狛江市は、多摩川の左岸、武蔵野台地の南縁に位置し、新宿から小田急線で約 20 分の立地で交通の利便性が高い住宅都市です。また、都心からの交通の便が良い上に、多摩川や野川などの「水」、狛江駅前にある弁財天池特別緑地保全地区や屋敷林などの「緑」が豊かであることから、潤いややすらぎを与えてくれる自然に恵まれた良好な住環境が整っていま	多摩市は、東京都のほぼ中央に位置し、多摩ニュータウンで知られる日本最大規模のニュータウンを中心とした、多摩丘陵の強固な地盤に、高水準な都市基盤と、自然と調和したゆとりある住環境が計画的に整備された街です。京王線・小田急線の 2 路線で都心にダイレクトアクセス、多摩モノレールで中央線方面へと、多彩な鉄道ネットワークにより、通勤・レジャーなどのお出かけも快適・便	稲城市は豊かな自然環境に恵まれており、交通アクセスにおいても新宿から電車で約 30 分という利便性があり、都心の近郊住宅都市という特色があります。豊かな自然環境としては、多摩丘陵の緑や多摩川の清流に代表され、上谷戸親水公園や大丸親水公園などの水と緑につつまれた公園も数多くあります。交通インフラにおいては、京王

	<p>交通では、甲州街道(国道20号)、国道16号(東京環状)、国道411号(滝山街道、青梅街道)の交点となっており、八王子ジャンクションにより、中央自動車道と圏央道との交点にもなっています。また、鉄道路線は合計7路線(JR中央本線、横浜線、相模線、八高線、京王線、京王高尾線、京王相模線、多摩都市モノレール)が乗り入れて、市内に21もの駅があり、昔から交通の要衝として栄えてきました。</p> <p>さらに、学術面では、21の大学等を抱えた学園都市として、約7,500人の教員、約9万5千人の学生や約2,000人の留学生が在籍・在学し、知の力と若いエネルギーがあふ</p>	<p>して各路線が整備されています。</p> <p>・産業</p> <p>市内には電機メーカーや飲料メーカーなどの生産拠点を有していることや、ネット通販大手の物流拠点が整備されています。また、金融や保険会社のバックオフィスとして開発された府中インテリジェントパークが立地し、知識集約型業務地として職住が近接する都市となっています。</p> <p>さらに、本市の工業の特徴として、製造品出荷額は東京都の区市町村別で第1位となっています。(平成30年実績)</p> <p>・観光</p> <p>府中市は遠く大化の改新後、武蔵の国の国</p>	<p>線の柴崎駅から西調布駅間(約2.8km)と調布駅から京王多摩川駅間(約0.9km)の地下化が実現し、これらの駅周辺部では、道路交通の円滑化や南北市街地の一体化など、様々な面で都市構造が大きな変貌を遂げました。平成29年には、シネマコンプレックスを含む3館の複合施設「トリエ京王調布」がオープンし、市内外から多くの方が調布のまちを訪れ、新たなにぎわいが創出されています。また、東京都がスポーツの振興と地域の賑わいに貢献することを目的として、メインアリーナとサブアリーナ、プールからなる「武蔵野の森総合スポーツプラザ」を開設した</p>	<p>原線とJR横浜線が交差する町田駅は、1日の平均乗降人員・乗車人員が小田急小田原線では新宿駅に次ぐ第2位、JR横浜線では第1位となっています。</p> <p>鉄道路線は市域の外縁部を通っているため、市内を移動するための主な公共交通の手段はバスとなっています。幹線道路は、市の南端に東名高速道路の横浜町田インターチェンジがあるほか、国道16号や国道246号といった広域幹線道路へもアクセスしやすい位置にあります。</p>	<p>宅地に、多摩川と浅川、市内を縦横に巡る用水などの清流、丘陵地、里山などの緑が共存しています。</p>	<p>す。面積は6.39km²で、全国で2番目に小さい市ながら、多くの人が住む住宅都市として発展してきました。地形はほぼ平坦であり、市域のコンパクトさも含め、防災・防犯面にも優れたまちになっています。平成7年の小田急線連続立体交差事業による高架化により、市内に踏切はないことから南北の往来もしやすく、また、平成13年の多摩水道橋の架け替えにより車道が4車線となったことから、神奈川県方面への交通の便も非常に良くなっています。平成30年には、狛江駅に準急が停車することとなり、乗り換えずにアクセスできるようになりました。また、小</p>	<p>利です。道路も広々、高速道路へもスマートアクセスが可能です。</p>	<p>線やJR線の駅が計6駅あり、中央自動車道につながる稲城インターチェンジも開通しています。また、交通弱者のためのコミュニティバスや各駅の高架化による踏切がないことによる道路交通の円滑化も進み、市内外の周遊性は年々高まっています。</p>
--	---	--	---	---	---	--	---------------------------------------	--

	<p>れるまちとなっており、産業面では、市内に約18,000社・約22万人の従業者数を有しています。</p>	<p>府（役所）が置かれ、名だたる武将たちも戦勝祈願に訪れた場所です。</p> <p>徳川家康がけやき並木を捕植し、馬場を献納し、江戸時代には甲州街道の宿場町としても栄えました。そのため府中市には歴史のある寺社旧跡などが多く残り、くらやみ祭りに代表される様々な伝統行事が継承されています。</p> <p>そのほか、豊かな自然や大人も子供も楽しめるレジャースポットも多くあります。</p>	<p>ことで、市内外からより多くの交流人口を引きつけられる都市として求心力がより一層高まっています。</p>			<p>田急線の駅で唯一、隣の調布市にある東京スタジアムへの直行バスが発着していることから、週末のスポーツイベントを中心に市外からも多くの人を訪れています。</p>		
人口	<p>人口は昭和40年に20.8万人でしたが、昭和50年以降、多摩ニュータウンの入居が始まったことなどから急増し、平成22年に58万人となりました。現在は、大学生が他市より多いこ</p>	<p>本市の人口は、市制施行以降増加し続け、多摩地域で3番目の規模となっています。</p> <p>府中市の人口は、今後も緩やかな増加が続きますが、令和12年前後をピーク</p>	<p>平成16年以降、増加人口は高水準が続いており、平成26から31年は多摩地域26市の中で2番目の増加率です。調布市の総人口は今後も緩やかに増加しますが、</p>	<p>現在は、子育て世帯から選ばれており、2015～2018年における社会増減数の推移をみると、0～19歳及び35～44歳は転入超過傾向にあります。対して、20～29歳は転出超</p>	<p>人口は現在も微増傾向があり、令和12年(2030年)をピークに減少に転じますが、令和42年(2060)には平成27年(2015年)と比較して約99%と現在と同水準</p>	<p>市の人口は、10年前と比較して約5,000人の人口増、人口密度は多摩26市の中で武蔵野市に次いで2番目に高くなっています。平成27年度の市の推計では、令和</p>	<p>市の人口は、多摩ニュータウン開発に伴い大幅に増加し、平成2年までの30年間に約15倍の14万人台まで増加。以降はほぼ横ばいで、平成27年では146,631人となっ</p>	<p>市の人口は、昭和46年の市制施行以来、一貫して増加しており、令和2年の市の推計では、今後も人口増加の傾向は続き、令和32年に人口のピーク(10万2,462人)を</p>

	<p>となどから、出生者数が減少している一方で、転入者が転出者数を上回っています。</p>	<p>に減少に転じると予想されています。</p> <p>本市では、このような人口減少社会へ対応するため、平成27年度に「府中市人口ビジョン」を策定し、将来展望として、平成52年時点で人口25.5万人及び合計特殊出生率1.50を確保することなどを目標と決めました。</p>	<p>徐々に増加幅は縮小し、令和10年の24万1741人をピークに減少に転じることが見込まれています。</p>	<p>過が続いている状況です。</p> <p>令和2年以降の推計は、近い将来、総人口が長期にわたる減少局面に移行し、令和22年には40万人を割り込むおそれがあります。</p>	<p>が維持できると見込まれています。</p>	<p>2年度をピークに人口減少に転じることが見込まれています。</p>	<p>ています。平成27年以降は自然減を上回る社会増が続いています。</p>	<p>迎え、その後減少に転じることが見込まれています。</p>
土地利用	<p>総数 9050.75ha 宅地 3855.36ha 田 58.12ha 畑 668.18ha 山林 2935.26ha その他 1209.13ha 免税点未満 324.70ha</p> <p>令和2年1月1日現在、課税対象外の土地を除いた土地利用区別の面積比は、宅地が42.5%で最も高く、山林が32.4%でこれに次いでい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総数 2520.8ha ・ 宅地 1664.5ha ・ 田 44.9ha ・ 畑 89.4ha ・ その他 772.0ha ・ 免税点未満 5.4ha <p>令和2年1月1日現在、府中市全体の土地利用区別の面積比は、宅地が最も高く、66.0%と</p>	<p>総数 1200.61ha 宅地 1022.03ha 田 8.71ha 畑 125.55ha 山林 2.51ha その他 39.09ha 免税点未満 2.72ha</p> <p>平成27年1月1日現在、課税対象外の土地を除いた土地利用区別の面積比は、宅地が</p>	<p>総数 6409ha 宅地 3052ha 田 78ha 畑 565ha 山林 839ha 雑種地 381ha その他 1494ha (平成31年1月1日現在) 土地利用区別の面積比は、宅地が最も高く、47.6%です。</p> <p>町田市全体の公園等の緑地面積は平成30年度時点で市域面積の29%を占めています。</p>		<p>総数 398.67ha 宅地 343.72ha 田 ー 畑 37.40ha 山林 0.73ha その他 16.32ha 免税点未満 0.50ha 平成31年月1日現在、土地利用区別の面積比は、宅地が86.2%で最も高く、次いで畑が9.4%となっています。平成2年以降の推移をみると、住宅地は</p>	<p>総数 1012.74ha 宅地 811.63ha 田 2.06ha 畑 37.91ha 山林 30.27ha その他 130.18ha 免税点未満 0.69ha 平成30年度現在、土地利用区別の面積比は、宅地が80.1%で最も高く、次い</p>	<p>総数 1,797ha 宅地 528.2ha 田 8.8ha 畑 125.0ha 山林 239.7ha その他 895.3ha</p> <p>平成31年1月1日現在、土地利用区別の面積比は、その他が49.8%で最も高く、宅地が29.4%でこれに次いでいます。公園やゴルフ場、遊園地等が多いことがその他の割合が高い</p>

	<p>ます。平成 2 年以降の推移をみると、宅地は増え続け、令和 2 年の面積は対平成 2 年比で 35.8% 増となっている一方、山林は減少し、令和 2 年の面積は対平成 2 年比で 23.5% 減となっています。</p>	<p>なっています。宅地化の傾向が続く一方、農地は減少しており、対平成 2 年比で 51.9% 減となっています。</p>	<p>83.6% で最も高く、農地が 12.2% でこれに次いでいます。平成 2 年以降の推移をみると、住宅地は増え続け、平成 27 年の面積は対平成 2 年比で 19.7 % 増となっている一方、農地は減少し、平成 27 年の面積は対平成 2 年比で 44.3% 減となっています。</p>			<p>増え続け、平成 31 年の面積は対平成 2 年比で 16.5% 増となっている一方、畑は減少し、平成 27 年の面積は対平成 2 年比で 53.9% 減となっています</p>	<p>で畑が 3.7% となっています。平成 2 年以降の推移をみると、宅地が増え続け、平成 30 年の面積は対平成 2 年比で 18.6% 増となっている一方、畑は減少し、平成 30 年の面積は対平成 2 年比で 48.7% 減となっています。</p>	<p>理由の一つとなっています。 また、平成 2 年の面積比と比較すると、宅地は 17.9% から大きく割合を伸ばしており、田は減少しているものの、梨園等の畑は微減に止まっています。</p>
--	--	---	--	--	--	--	---	---